

【科目名】 金融経済学Ⅰ	【単位数】 2 単位	【科目区分】 専門科目 基幹科目
【担当者】 國方 明 Kunikata, Akira	【オフィス・アワー】 時間: 第 1 回の授業で連絡します。 場所: 525 号室	【授業の方法】 講義
【科目の概要】 本科目では、金融という経済活動を、ミクロ経済学の知識を使って理解します。「金融という経済活動」という表現は漠然としているので、次の例を考えます。 今から 1 年間、A さんが B 企業へおカネを貸す。 この例から、金融の特徴を 2 つ挙げられます。 ● 特徴 1: 金融にかかわる取引では、開始から終了までの間で時間経過を伴います。たとえば A さんと B 企業との貸し借りは、今では終了しません。1 年後、B 企業が A さんにおカネを返してようやく終了します。 ● 特徴 2: 貸し借りを始める結果、今、A さんと B 企業は、将来にかかわる不確実性に直面します。たとえば今から 1 か月後、A さんがおカネを必要として、満期前の返済を B 企業に求める可能性があります。あるいは今から 1 年後、B 企業がおカネを A さんに返せない可能性があります。 以上のように金融は、他の種類の経済活動にはない特徴をもちます。この特徴を理解するために、本科目と金融経済学Ⅱで、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論をどのように拡張すべきなのかを学んでもらいます。 なお、本科目では主にミクロ経済学の金融への応用を学んでもらう予定です。		
【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 1. 他の科目との関連付け まず【科目の概要】で説明したように、本科目では、ミクロ経済学の知識を用いて金融を理解します。したがってミクロ経済学に対する十分な理解が必要です。特に本科目と関連している部分を取り出すと、ミクロ経済学のうち消費者理論、不確実性、情報の経済学の部分です。 次に本科目と金融経済学Ⅱは、金融関係の展開科目の基になります。 2. 学んだことが何に結びつくか？ 本科目の対象となる経済主体は、主におカネを貸したり借ったりする個人と組織です。個人と組織は、おカネの貸し借りを、日常的に行っています。たとえば皆さんは、現在銀行へ預金をしているでしょうし、いずれ株式や債券などに投資するかもしれません(このような活動を「資産運用」と言います)。一方さまざまなライフイベントに対処するために、皆さんはおカネを借りるでしょう(このような活動を「資金調達」と言います)。したがって本科目での学修は、皆さんの資産運用と資金調達に関して、適切な意思決定を行うための手助けになるでしょう。		
【科目の到達目標(最終目標・中間目標)】 1. 最終目標 ・ 資産運用と資金調達に関する意思決定を適切に行うための知識や判断力を身につける。 2. 中間目標 ・ 金融に関するマスコミ報道を「正しく」理解できるようになること。 ・ 現在の日本で、金融に関してどのようなトピックスがあるかを学ぶ。 以上の目標を達成するためには、授業で学んだことを、新聞を読んだりTVのニュースを見たりした時に応用する必要があるでしょう。		
【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 進度が遅いとのこと指摘をいただきました。ご指摘を受けて、いくつかの論点を補論に廻します。補論に廻す論点は、授業で説明せず、小テストおよび期末試験どちらにも出題しません。		
【教科書】 本科目では教科書を使用しません。その代わりに、ハンドアウト(俗に言うプリント)を配布して、それに基づいて講義します。下記参考書に基づいてハンドアウトを作成しています。		
【指定図書】 該当無し。		
【参考書】 内田浩史『金融』有斐閣、2016 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)		

<p>〔前提科目〕 ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、統計学</p> <p>上記 3 科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。ただし該当科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 2020 年 4 月以後に入学した学生については、次の(ア)と(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。 (ア) 授業内小テスト 1 回。択一式です。 (イ) 試験期間中の試験 1 回。択一式と記述式の併用です。</p> <p>一方、2019 年 4 月以前に入学した学生については、〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕1 点目を参照してください。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 2020 年 4 月以後に入学した学生については、〔学修の課題、評価の方法〕に挙げた(ア)と(イ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。 A:80%以上。B:70%以上 80%未満。C:60%以上 70%未満。D:50%以上 60%未満。F:50%未満。</p> <p>一方、2019 年 4 月以前に入学した学生については、〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕1 点目を参照してください。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>2019 年 4 月以前入学者のうち、今年度春学期開講の金融経済学Ⅱを履修した人だけが、本科目を履修できます。金融経済学Ⅱと本科目を履修した人に対して、2 科目の学修成果を総合して、4 単位分の評価を行います。</u> ● 第 1 回の授業で、評価方法などについて補足説明します。できる限り出席してください。 ● 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談)を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、國方が受け付けます。 ● 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。 	
<p>〔実務経歴〕 公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、これまで学んできたミクロ経済学の理論をどのように金融へ拡張できるのか、また金融理論の特徴が現実の制度とどのように結びついているのかを学ぶ授業です。</p>	
<p style="text-align: center;">授業スケジュール (新型コロナウイルス感染拡大状況や履修者の理解度などによって、スケジュールに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。)</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンスおよびイントロダクション 内 容: まず本科目のガイダンスを行います。次に金融を定義して、金融をめぐる諸論点を紹介します。最後に(ミクロ経済学の復習を兼ねて)「経済理論における貨幣の役割」を学びます。 参考書 第 1 章</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 貨幣とは何か? 内 容: 貨幣の機能、素材、貨幣にかかわる統計データを学びます。 参考書 第 1 章と第 2 章</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融取引の特徴と、金融取引の阻害要因 内 容: 金融取引の特徴、金融取引の阻害要因を学びます。またリスクの概念を学びます。 参考書 第 3 章と第 4 章</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 阻害要因の軽減策と、金融市場 内 容: 阻害要因を軽減するための社会的工夫を学びます。また、社会的工夫の一例として、金融取引の場である、金融市場を学びます。 参考書 第 3 章と第 4 章</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 利子率と割引現在価値 内 容: 第 5 回と第 6 回で、利子率にかかわる理論を学びます。 第 5 回では、まず「異時点間の消費問題」のモデルにおける利子率の位置づけを学びます。次にリスク・プレミアムとフィッシャー方程式を学びます。最後に、将来におけるおカネの額を、今の価値に換算す</p>

	<p>る手続きを学びます。 参考書 第2章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 利子率と金融資産価格との関係 内 容: 利子率と金融資産の価格とは、通常、一方が上がるときに他方が下がる関係にあります。この関係が成り立つメカニズムを学びます。 参考書 第2章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融にかかわる統計学 内 容: 第3回で学んだように、貸し手と借り手どちらも将来予測を行わなければいけません。将来を予測する際に、統計学の知識(期待値、標準偏差、相関係数)を金融に応用します。たとえば利子率の期待値をリターンといい、利子率の標準偏差をリスクといいます。 参考書 該当なし。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動① 数式 内 容: 第8回～第10回で、貸し手がポートフォリオに投資する場合の合理的行動を学びます。ポートフォリオは、複数の金融資産を同時に保有する行為です。 第8回では、ポートフォリオについて、リターンの式とリスクの式を学びます。第8回授業内で、小テスト(択一式)を実施する予定です。 参考書 第7章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動② 図(予算線) 内 容: 第8回の数式を図に描きます。この図は、貸し手にとって予算線に当たります。 参考書 第7章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 貸し手の合理的行動③ 図(予算線および無差別曲線) 内 容: 第9回で学んだ平面に、貸し手の無差別曲線を描きます。そして、予算線と無差別曲線とを組み合わせ、予算制約の下での期待効用極大化行動を図示します。 参考書 第7章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 借り手の合理的行動 内 容: 借り手、特に企業の合理的行動を学びます。 参考書は該当無し。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融構造 内 容: 貸し手と借り手が、どのような経路を通じて結びついているのかを学びます。この経路は、次の2種類に分かれます:(a)金融市場と(b)金融仲介機関。 参考書 第8章と第9章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 証券市場 内 容: 第12回(a)のうち証券市場について、専門用語を中心に学びます。 参考書 第6章、第8章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 証券化 内 容: 第12回(b)のうち、証券化の枠組みを学びます。 参考書 第7章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): トピックス 内 容: 最近の金融を理解するうえで重要なトピックスを、これまでの授業と関連づけて学びます。 指定図書 該当無し。</p>
試験	<p>期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などを授業内で連絡します。</p>